

# 新型インフルエンザ

## 一人一人が対策を

保健相談センター ☎235・7880

新型インフルエンザの大流行が懸念されています。今回は、国や市などの新型インフルエンザへの対応策の概要と、実際に発生した時に慌てずに対応するため、私たちが日ごろからできる備えについてお知らせします。

### ◆新型インフルエンザとは

新型インフルエンザとは、動物、特に鳥類のインフルエンザウイルスが人に感染し、人の体内で増えることができるように変化して、人から人へと効率よく感染できるようになった「新型インフルエンザウイルス」が感染して起こる疾患のことです(表1)。

### ◆発生すれば爆発的な感染(パンデミック) 社会の機能に大きな被害

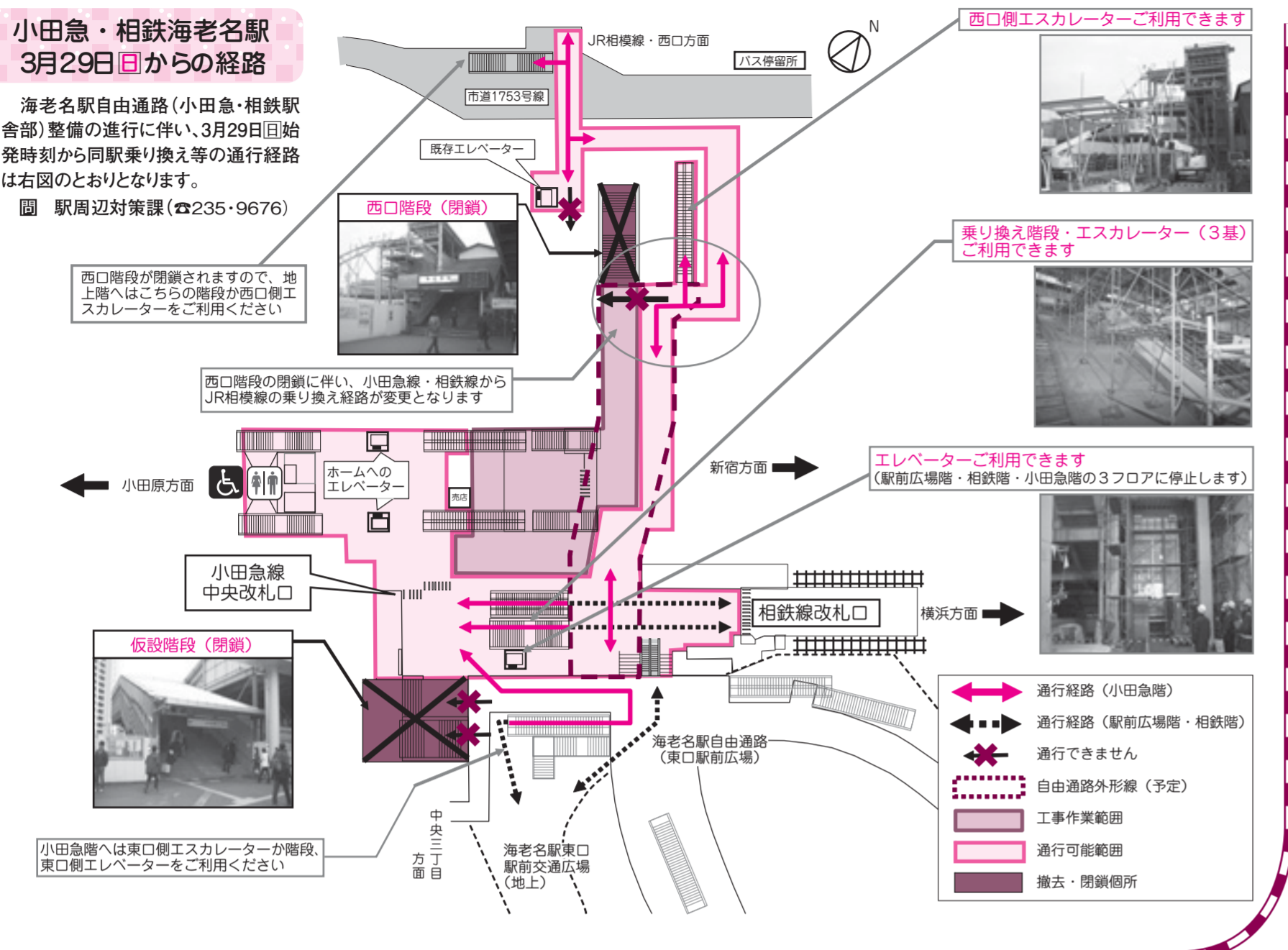
新型インフルエンザウイルスは、感染力が強い上、ほとんどの人が抵抗力(免疫)を持っていません。このため、実際に出現すると、世界中で爆発的な感染(パンデミック)を引き起こし、私たちの健康だけでなく、経済活動を始めとする社会の機能にも大きな被害を与える恐れがあります。

### ◆感染は4人に一人を想定 死者は最大64万人とも

新型インフルエンザはまだ発生していないため、感染や症状の程度はまだ分かりませんが、過去の発生例を参考に想定すると、日本では国民の4人に一人が感染し、最大64万人が死亡するのではないかとわれています。

### ◆日常生活まひの恐れ 日ごろから備えを

新型インフルエンザが流行すると、公共交通機関、電気や水道などのライフライン、商店など、社会生活全体がまひします。このため、行政、事業者、住民がそれぞれ準備しておくことが大切です。市・社会全体の取り組み概要は表2・4のとおりです。



【表2】

### ■市の取り組み

市では「海老名市新型インフルエンザ対策行動計画」を作成し、発生に備え迅速に対応します

- ◎発生した場合の対応
  - ①専用相談窓口の設置  
市としても相談窓口を設置して、市民の皆さんからの予防方法の相談に対応します。また、症状により感染の危険のある方は、医療機関等を紹介しします
  - ②小・中学校等の休校措置、集会等の中止の呼びかけ  
人同士の感染の拡大を最小限にするため、市内小・中学校の休校、保育園・幼稚園の休園、多数の人が集まる集会等集団活動の中止の呼びかけを行います(市の関連する集会等集団活動は中止)
- ◎発生前の対応
  - ①県・医師会との連携  
安定した医療が提供できるよう、県や医師会等と連携します
  - ②マスク備蓄の呼びかけ  
感染予防の最も効果的な装備であるマスクを備蓄するよう呼びかけます。また、市でもマスクを備蓄します

【表3】

### ■国の医療充実への取り組み

- ①抗インフルエンザウイルス薬の備蓄(症状を抑える、症状悪化を抑える)  
体の中でウイルスが増え、症状が出たり悪化したりするのを抑える薬「抗インフルエンザウイルス薬」といい、国はタミフルとリレンザの2種類を備蓄しています
- ②発症後の速やかなパンデミックワクチンの製造(効果は期待できるが現段階では製造できないワクチン)  
新型インフルエンザをもとにつくるワクチンを「パンデミックワクチン」といい、高い効き目が期待されています。ただし、このワクチンは新型インフルエンザが発生してからでなければウイルスが手に入らないこと、ワクチンをつくるために一定の時間がかかることなどから、すぐに使うことはできません
- ③プレパンデミックワクチンの製造・備蓄(パンデミックワクチンが製造されるまで応急的に使用)  
パンデミックワクチンができるまでの間使用する、鳥インフルエンザウイルスをもとにつくられるワクチン。新型インフルエンザに対してある程度の効果が期待できるため、現在、国ではこのワクチンを製造・備蓄しています
- ④病院と診療所での特別体制の整備(安心して治療できる環境づくり)  
新型インフルエンザの発生後は、病院での感染を避けるために、熱の出た方専用の外来をつくるなど、特別な体制をとります

【表6】

### ■備蓄用品チェックリスト

新型インフルエンザ発生後は、買い物が困難になる可能性があります。家族構成に合わせた必需品を平常時から備蓄しておき、使用期限内に使い回すようにしてください。このほか、災害時に必要な懐中電灯、乾電池、ラジオ、カセットボンベ、現金(硬貨)なども備蓄を

	名称	用途	チェック欄
インフルエンザ対策物品	マスク	微粒ろ過率が高い不織布マスクで、鼻・口を十分に覆うことができ、顔に密着するものを一人当たり50枚程度(使い捨て)	
	ゴム手袋	汚物の処理に装着(破れにくく、使い捨てのもの)	
	水枕・氷枕	発熱時に頭部や脇の下、足の付け根など動脈が通っている部位を冷やす	
	消毒薬等	消毒用アルコール、次亜塩素酸を含む漂白剤(汚染された手指、ドアノブ、衣類など用途に合わせて選択)	
	体温計	予備も含め2本用意する	
日用品	ゴーグル	眼からの飛沫感染予防(眼鏡の上からかけられるものもあります)	
	ビニール袋またはふた付きごみ箱	使用済みティッシュペーパーやマスクを密閉する	
	常備薬	胃薬、鎮痛剤、持病の薬、傷薬、解熱鎮痛剤(※)	
食料(長期保存できるもの)	衛生材料	ガーゼ、コットン、ばんそうこうなど	
	日用品	ティッシュペーパー、トイレトペーパー、生理用品、洗剤等	
食料(長期保存できるもの)	主食	米、もち、めん類、シリアル類、乾パンなど	
	その他	各種調味料、レトルト食品、冷凍食品、缶詰、菓子類、ミネラルウォーター、ペットボトルや缶入りの飲料 ☆水は多めに!(一人1日当たり最低2ℓ)	

※解熱鎮痛剤は、成分によりインフルエンザ脳症を誘発するものがあります。購入の際は必ず薬剤師と相談してください

【表5】

### ■私たちが今からできること

- ①うがい・手洗いを習慣に~マスク着用が大切~  
新型インフルエンザ対策は、通常のインフルエンザ対策の延長線上にあります。熱・せき・くしゃみ等の症状のある人は必ずマスクを着用すること、また、これらの症状のある人と接する時にもマスクを着用することが大変重要です。せきやくしゃみを押さえた手、鼻をかんだ手は直ちに洗うことも必要です(これらを「せきエチケット」といいます)。外出後の手洗いを日常的に行い、流行地への渡航や、人込みへの外出は控えてください
- ②食料・水・日用品の備蓄を~2週間分は必要~  
パンデミックは、海外でも同時に発生します。日本だけでなく、海外で大流行すれば、輸入品は減少または停止し、食料や生活必需品が不足する恐れがあります。このため、日々の買物で少しずつ買いそろえることが大切です。備蓄用品は、表6を参考に、最低でもパンデミックが落ち着くといわれる2週間分を用意してください

「せきエチケット」にご協力を!

- ①せき・くしゃみをするときはティッシュペーパーなどで口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけ1m以上離れる
- ②呼吸器系分泌物(鼻汁・たんなど)を含んだティッシュペーパーは、すぐにふた付きの廃棄物箱に捨てる
- ③せきが出る時は、マスク着用を。また、せきをしている人に着用を促す  
※通常の市販マスクは、せきのウイルスの拡散をある程度は防ぐ効果があると考えられていますが、できるだけ透過性の低い製品を選んでください  
※マスクを着用しているからといって、ウイルスの吸入を完全に予防できるわけではありません  
※マスクは、説明書をよく読んで正しく着用してください
- ④せきやくしゃみを押さえた手、鼻をかんだ手は直ちに洗う

【表3】

### ■国の医療充実への取り組み

- ①抗インフルエンザウイルス薬の備蓄(症状を抑える、症状悪化を抑える)  
体の中でウイルスが増え、症状が出たり悪化したりするのを抑える薬「抗インフルエンザウイルス薬」といい、国はタミフルとリレンザの2種類を備蓄しています
- ②発症後の速やかなパンデミックワクチンの製造(効果は期待できるが現段階では製造できないワクチン)  
新型インフルエンザをもとにつくるワクチンを「パンデミックワクチン」といい、高い効き目が期待されています。ただし、このワクチンは新型インフルエンザが発生してからでなければウイルスが手に入らないこと、ワクチンをつくるために一定の時間がかかることなどから、すぐに使うことはできません
- ③プレパンデミックワクチンの製造・備蓄(パンデミックワクチンが製造されるまで応急的に使用)  
パンデミックワクチンができるまでの間使用する、鳥インフルエンザウイルスをもとにつくられるワクチン。新型インフルエンザに対してある程度の効果が期待できるため、現在、国ではこのワクチンを製造・備蓄しています
- ④病院と診療所での特別体制の整備(安心して治療できる環境づくり)  
新型インフルエンザの発生後は、病院での感染を避けるために、熱の出た方専用の外来をつくるなど、特別な体制をとります

【表4】

### ■社会全体の取り組み

- ①空港や港で⇒検疫態勢の強化  
海外で新型インフルエンザが発生した場合、感染した人やその可能性のある人が国内へ簡単に入らないよう、国は検疫態勢を強化します
- ②学校で⇒休校等の措置  
学校はウイルスが感染しやすい場所のため、休校することで感染速度を落としたり、感染者数を減らしたりすることができます
- ③職場で⇒感染を広げない仕事の仕方を検討  
仕事全体の量を減らし、在宅勤務や交代勤務、あるいは時差通勤や出張・会議の中止など、感染が広まらないような工夫をします
- ④集会の延期や中止の呼びかけ⇒感染拡大を防止  
多くの人が集まれば集まるほど、人から人への感染は広がっていきます。このため、人の集まる機会をできるだけ減らすことが重要になります
- ⑤外出を減らすことの呼びかけ⇒かからないため、うつさないため  
人と近づく外出は、感染の確率が増加するため、可能な限り控えるよう、呼びかけます

【表1】

### 「新型インフルエンザ」と季節性インフルエンザ、鳥インフルエンザ

- ◆未知のウイルスによるインフルエンザ
  - 毎年流行を繰り返すインフルエンザウイルスとは全く異なる新型ウイルスにより引き起こされるインフルエンザです
  - 近年は、東南アジアを中心に鳥インフルエンザウイルスが流行しており、このウイルスが鳥から人に感染する事例が数多く報告されています。これら鳥インフルエンザのウイルスが変異することにより、人から人へ感染する新型インフルエンザが発生する可能性が懸念されています
  - 新型インフルエンザはおおよそ10年から40年の周期で発生しています。過去には「スペインインフルエンザ」「香港インフルエンザ」などが世界的に流行しており、多数の死者が出ました
- ※日本では毎年冬に流行するインフルエンザも、過去に大きな被害をもたらしたもののうちの一つですが、一度発生したインフルエンザは、国民の大多数が抵抗力(免疫)を持っていることと、ワクチンがあることにより、大規模な被害にはなりません

### 季節性インフルエンザ

- ー日本では毎年冬に流行ー
- 日本では毎年冬に流行するインフルエンザのこと。北半球では通常、毎年冬季に流行します

### 鳥インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザ)

- ー鳥の間で流行しているインフルエンザー
- 鳥インフルエンザの中には、アヒルやカモなど多くの水鳥の中では感染しても症状が出ず、ニワトリや七面鳥などに感染すると、強い毒性を示し、死を招くものがあります。これが高病原性鳥インフルエンザと呼ばれ、まれに人へも感染します